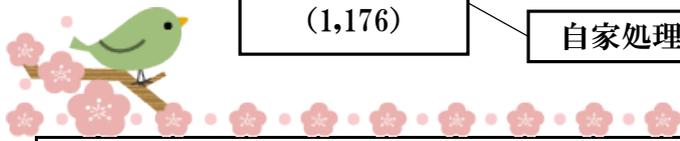


稼働後36年経過した環境衛生センターについて

老朽化が進み、近い将来施設の更新を控える環境衛生センターの現状と今後の整備計画の考え方について質問しました。(以下はその一部です。詳細は議会報告会にて)

川越市環境衛生センターとは、し尿や浄化槽汚泥を処理する施設です。ごみなどを取り除き、現在は微生物などを利用して処理した水を、平成18年に県の施設となった隣接の下水処理場である新河岸川上流水循環センターに送っています。



	浄化槽汚泥	し尿	吸込層等清掃水
昭和58年	27816.8	54288.6	1897.9
昭和62年	35310.3	44435.8	2315.3
平成 3年	36759.5	32595.4	2935.6
平成 7年	28710.9	14172.3	5185.5
平成11年	24702.6	8532.8	5794.6
平成15年	25469.2	6336.2	3424.9
平成19年	28648.4	4451.9	2718.8
平成23年	30589.2	3077.7	378.7
平成27年	31827.6	2871.9	365.5

左の表が示すように、それぞれの処理量や処理内容は昭和58年と比べると大きく変わっています。

現在は公共下水道の整備や農業集落排水施設の整備により、**環境衛生センターでは処理量のほとんどを浄化槽汚泥が占めるようになっています。**

しかしこの状況は、生活排水処理に関わる最上位計画である平成22年度策定の**生活排水処理基本**

計画の見通しも異なる状況でした。この計画では、平成37年度までに生活排水処理率100%達成を目標にしていたが、公共下水道の整備は計画通り進んでおらず、新たな宅地開発の増加もあり浄化槽の割合は増えました。そのため、環境衛生センターでの処理量も計画通り減っていません。そして、この処理量の見通しは、**次にどんな規模の、どのような施設を整備するべきかを検討する上での基礎データ**であることから、川越市の生活排水処理に対するの考え方と方向性について質問しました。

川口. 計画と現状は異なっている。公共下水道、農業集落排水、浄化槽の今後の方向性は？

環境部. 37年度までに生活排水処理率100%を目指した**現計画は県に足並みを揃えたもの**だったが、人口減少社会への対応や社会情勢の変化、公共下水道の整備状況などにより、**現状は目標とかい離している部分もあり、今後見直しを予定している。**

川口 **計画と現状が異なっていると指摘！** → **市 計画の見直しを示唆！**

川口. 近年、し尿・汚泥処理施設でも堆肥化助燃材化、炭化、メタン発酵、リン回収等再資源化技術も年々進化しているが、浄化槽汚泥等の再資源化の検討についてどのように考えているか？

環境部. 再資源化の方法も複数あり、施設整備の検討に併せて調査研究したい。